

拙作『小説永井荷風伝』について

中村光夫氏にただす

佐藤春夫

青空文庫

先日は失礼。足下の文芸時評を只今一読いたしました。長つたらしい拙作に対して一読の労を費されたことを先ず感謝します。つづいてそれに対して少々もの申すのにお耳をお傾けねがいます。

貴文の一節に「荷風の生活について新しい発見があるわけではなく、『小説』と銘を打った積極的理由もわかりませんが……」とあるお言葉ですがね。

わたくしは拙作のなかで荷風を「エディポスコンプレックスの人」としました。これはすくなくともわたくしにとつては、新発見のつもりでした。わたくしは永年、荷風の父に対する恐怖的服従とそれをはね返す反抗とはよく知っていました。それがエディポスコンプレックスに根元があること、そしてそれが荷風の生涯を支配していることは、今度拙作を執筆中にはじめて気がついたところでした。

同じような事をこうはつきりといった人が今までにありましたらうか。寡聞かぶんにしてわたくしは知りません。あつたなら御教示を得たいものです。

それとも荷風をエディポスコンプレックスの人と見ることが間違いで、新しい発見にはならないのでしょうか。

あるいはわたくしがそういう見方で荷風伝を書こうとしている意向は拙作の一編では十分に表現されていないでしょうか。結末にもう一度念を押して具体例を書くつもりではいりましたがそれはそそかしい読者に見のがされるのをおそれたからで一人前の読者なら、あれだけでもわかるつもりでいしましたが、あれだけでは足下にわかってもらえなかったとでもいうのでしょうか。

荷風をエディポスコンプレックスと見るべき証拠は別に何もありません。わたくしが荷風全集を読んだの解釈なのですが、こんな解釈が単にわたくしの空想に過ぎないかも知れないと思つたればこそ書いてあまり力説もせず、また「小説」と銘うったわけですよ。しかし小説という観念は足下と僕と必ずしも一致いたしません。この点は先ずどうでもよろしいとして、今は「荷風エディポスコンプレックス説」に対して質問いたします。

わたくしの荷風敬慕に対して荷風が冷淡であったことは足下のお説のとおり、僕の記したとおり事実ですが、荷風という人は同性に対しては敗残者の傾向の人でない限り、たとえば井上唾々に対する場合のような時の外はいつも冷淡な人なので、その女性に対する異常な愛情とともに、これもまたエディポスコンプレックスの一つの現われだとわたくしは考えているのです。

ついでながら僕を批評的才能に恵まれたなどとはとんでもないお世辞で、僕には批評的才能などは何も恵まれていません。ただ批評的気質があるだけです。そうしてそれも恵まれたとは思えません。僕自身は批評的気質にわざわざいされたと思っています。わかってもらえましょうか。

青空文庫情報

底本：「定本 佐藤春夫全集 第26巻」臨川書店

2000（平成12）年9月10日初版発行

底本の親本：「朝日新聞」

1959（昭和34）年12月24日発行

初出：「朝日新聞」

1959（昭和34）年12月24日発行

※1959（昭和34）年12月21日発行の『朝日新聞』に掲載された中村光夫「文芸時評 下」に反駁するものです。

入力：朱

校正：きりんの手紙

2019年1月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<https://www.aozora.gr.jp/>）で作ら

れました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

拙作『小説永井荷風伝』について

中村光夫氏にただす

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

著者 佐藤春夫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>